

公益社団法人日本青年会議所 2022年度 意見書

中島 土

J Cなんかにまちは変えられない。
J Cは二代目三代目のサロンだ。
こんな時代に J Cなんてやってられない。

J Cが、まちでこんな風に言われていることを、
あなたも少なからず耳にしたことがあると思う。

僕は悔しくてならない。

国や故郷がピンチの時に立ち上がり、
誰よりも先に動き出し、
家族も社員も守りながら、
前を向き続けた70年は嘘じゃない。

私たちの力はこんなもんじゃない。

大丈夫。

あなたも J Cも、ここからだ。

私は、あなたと J C の力を信じています。

J C に所属するあなたは、あなたのまちをより良く変えていくポテンシャルを既にもっています。なぜなら J C は、まちをつくる「運動」を、あなた自身が起こせるようにすることを使命としているからです。

J C は、まちや社会全体を青年の目線から幅広く捉え、問題のある仕組みを自ら見つけ、より良く変えていくことができます。NPO やその他社会貢献団体に取り組むターゲットを絞った活動ももちろん素晴らしいのですが、広い視野から社会課題の核心にアプローチしようとする青年組織は、J C だけではないでしょうか。

また、商売でつながり自社の利益を上げることを本質的な目的とするのではなく、メンバー一人ひとりができる範囲の中で社会へ無条件で奉仕をしようとする、純粋な動機をもつ青年組織も他にはないでしょう。

このような無償の愛を前提にしているからこそ、J C に所属する私たちは、まちや社会を具体的により良くし、幸せを生み出し続ける運動をつくることができます。その運動を起こすには、まちを形づくっている「仕組み」を変えていかなければなりません。仕組みを変えることで、地域は良くなり続け、社会は変わり続けることができます。

私は、そのような社会を変え続ける仕組みのことを「幸せを生み出し続ける装置」と呼んでいます。

40 歳を目前とする今、人生はおよそ後 50 年そこそこで終わるでしょう。いや、もしかすると、今日、何かの拍子に終わりを迎えるのかもしれない。二度とない人生を考える時、もう一人の私が、私を突き動かします。

「このままで良いのか」

こんな厳しい時代の中でも、J C に所属し、まちを少しでもより良くしようと力を尽くすあなたは、故郷にとって尊い存在です。地位や名誉もかなぐり捨て、真心をもって世のため人のために汗を流すあなたこそ、まちの名も無きヒーローです。

二度とない人生をどう生きるべきか、一緒に考えましょう。そして、「幸せを生み出し続ける装置」をつくり出すために、一緒に行動を起こしましょう。

【JC運動とは】

青年会議所は、何をなすべきなのでしょう。それは、JCI MISSION（青年会議所の使命）にある、青年に「発展と成長の機会を提供する」そして、青年が「まちをより良くする運動をつくることができるようになる」ことです。

当初、私はこの言葉の意味を、なかなか理解することができませんでした。しかし、過去のある出来事がきっかけとなり、その意味がようやくわかったのです。

2014年、LOMの委員長を務めた際、例会企画の責任者を担当することになりました。当時は、存続できなくなる自治体「消滅可能性都市」が全国で話題となり、それぞれの地域がこの社会課題をどのように解決するか走り出した頃でした。

私は、JCを通じてこの課題解決に貢献したいと思い「私たちはどう向き合う!?ふるさとに迫る人口減少問題」のタイトルで、有識者によるパネルディスカッション公開例会を開催しました。今でも、課題の捉え方は間違っていなかったと思います。

例会の約1週間前、300名程入る会場に、メンバーも含めわずか100名弱の動員予定であることがわかり、それから慌てて知り合いや社員に声をかけました。結果的には、200名弱の参加を頂き、その後の報告議案を協議する理事会では「みなさんのおかげで動員が成功しました」と感謝を伝えました。一定の参加者数を確保できたことに、少し誇らしかった自分がいたのです。

しかし、その企画はまちの役に本当にたったのでしょうか。市民に、人口減少社会の到来を警鐘するための例会は、それ自体には意味があったかもしれませんが、この1度限りの例会企画が、社会に希望をもたらす変革の起点となったのでしょうか。私は、このプロジェクトは失敗だったと思っています。もちろん、共に汗を流したメンバーや、参加下さったパネリストをはじめ全ての関係者に深く感謝していますが、私の力不足によって、まちをより良くする運動をつくることができませんでした。

私は、この少しほろ苦い経験から、「自己都合で場を取り繕い、手法が目的化し、社会を変えたのかよくわからない」プロジェクトのことを、「JCごっこ」と呼ぶことにしました。これは、JCごっこで満足してしまった経験を自戒するための言葉です。私は、例会を企画できるという素晴らしい機会を、まちの発展に活かすことができなかったのです。

【成長とは、前提の獲得】

私たちは、JC運動の意味を、改めて見つめ直す必要があります。本当の意味で、地域社

会の発展に貢献できているのであれば、JC運動は必ず大きなムーブメントとなって、社会を変え続けていくはずですが、それができなければ、かつての私のJCごっこのように、その場限りで終わってしまいます。だからこそ、私たちは社会を変え続ける仕組みをつくらなければならないのです。

では、どうすればそのような仕組みをつくるのでしょうか。それには「成長」が必要です。JCで獲得できる成長とは、単なる「スキルアップ」のことではありません。読めない会計が読めるようになること、できなかった英語が話せるようになること、これも確かに成長です。そのようなスキルアップは大切ですが、しかしそれらのスキルではムーブメントは起こせません。ただ、会計や英語が得意な人になるだけです。では、成長とは何か。それは、損得だけで物事を考えず、人を愛し、人のために無条件で奉仕できるようになること、です。

他者は、基本的にわがままです。時に、あなたにとって不都合で不愉快な存在であることもあるでしょう。もちろん、あなたの人生を支え、豊かにしてくれる存在でもあります。しかし、JCに所属するあなたは、どこの誰とも知らない、あなたのまちに住む誰かのために奉仕をしようというのです。そんなことが、自分の幸せだけを前提としている人に可能でしょうか。人に無条件で奉仕する、こんな非合理的で無茶苦茶なことが、利己的な人間に可能なわけがありません。このように、人のために自己を犠牲にするような、非合理的なことを可能にするのは「愛」しかありません。愛を当たり前のこととして受け入れ、自分以外の人に奉仕できるようになること、愛を前提として社会活動ができるようになることが、JCにおける成長です。

経済的発展による利益の追求は、間違いなく必要です。私たちJCメンバーは、青年経済人としてその責務を負います。しかし、経済的発展をただ追い求めれば良いというわけではありません。それを追い求めることによって、人を思いやる愛がなくなっていくのだとすれば、経済的発展が、社会的発展に悪影響を与えているということになります。私たちは、経済をリードしながら、互いを思いやることができるようになる社会的発展も牽引しなければならないのです。

思い起こせば、愛を前提とした無条件の奉仕が大切だと気が付いたのは、JCでの出会いからでした。2013年、ブロック協議会の総務委員長を務めた際、入会3年目の私はそれまで議案というものを見たことがありませんでした。ハイパーリンクもアジェンダも、背景も目的も見たことも聞いたこともない中、「他の委員会の議案をチェックし、君も議案を書くように」と指示があったのです。

まさに、J Cど素人とも言える私は途方に暮れました。役割を受けてはみたものの、最後まで責任を果たせるのか不安で一杯でした。しかし、その時、私を助けてくれるメンバーが現れました。直属の上長である運営専務です。彼は毎日、私のために、議案の見方や運動のつくり方等、寝る間も惜しんで懇切丁寧に教えてくれました。ほぼ初対面からチームを組んだにもかかわらず、そして、決してそこから経済的な利益が互いに生まれるわけではないにもかかわらず、ただただ私の成長を願って自分の大切な時間を使ってくれたのです。

私はこの体験から、J Cでは、人に無条件で奉仕することが前提になっていることを知りました。愛が前提になっているのです。以来私は、自分にできることであれば、見返りを求めず人に奉仕するようになりました。この時、私はJ Cの前提を受け継ぐことができたのだと思います。このような経験は、みなさんにもあるのではないのでしょうか。

改めて、J Cにおける成長とは、無条件で奉仕する愛という前提を受け継ぐことです。

私はこの受け継いだ前提を、一人でも多くの人にお渡ししていきたいと思っています。一方、今は自分のため、身近な人のためにJ Cに取り組むメンバーもいらっしやると思います。それも、本当に尊いことです。しかし、当初は自分のためだけに入会したメンバーも、J C運動に力を尽くす中で少しずつ自分自身の価値観の範囲が広がります。いつの間にか、誰かのために役立ちたい、私のまちをより良くしたいという社会的使命を帯び始めます。それがJ Cの魔法です。焦らずじっくり腰を据え取り組んでいきましょう。そして、前提である愛を共に受け継ぎ、広げていきましょう。

【幸せを生み出し続ける「装置」をつくる】

みなさんもお存じの通り、実際に、全国の多くのJ Cメンバーが、運動を起こし、社会課題解決の仕組みをつくり、持続可能な地域づくりに貢献しています。そのような、人々を幸せにする仕組みのことを、あえて「装置」と呼びたいと思います。

装置と呼ぶ理由は、私たちがつくる運動は社会を自動的に良くし続ける機械のようなものだからです。装置は、ルール、慣習、ヒト、モノ、カネ等が集まって自走している仕組みのことです。

例えば、地域のお祭りに参画し市民と共に故郷を盛り上げる活動や、著名な講師を招いての講演等は、多くの人から感謝され大変な評価を頂いています。それも、社会にとって必要とされる大切なJ C運動です。しかし、その日に見た笑顔は、持続的なものではありません。毎日、そして、10年、30年、100年とその笑顔を守り続けるためには、一回

だけの事業構築では難しいはずです。

運動には、まちの現状を維持するものと、現状を変えて成長し続けるものがあります。もし現状が衰退の方向に向かっているのであれば、まちの現状を維持する一回の事業だけでは近い将来笑顔を守ることができなくなるでしょう。目の前の笑顔はあまりにも魅力的ですが、それだけではなく、リーダーは社会の大きな潮流こそ見極めなければなりません。

その潮流とは、あなたのまちにおいて笑顔が増える流れにあるのか、笑顔が減る流れにあるのかです。今、目の前の笑顔の数以上に、その潮流を捉えることが重要です。

J Cは単年度制です。1年でプロジェクトの成果を出すことは決して簡単ではないと思います。1年が過ぎれば、役割もやるべきことも大きく変わります。だからこそ私たちは、単年度を越えた社会の大きな潮流を見極め、その潮目を変える装置をつくらなければなりません。あなたがJ Cに居続けなければ幸せを生み出すことができないといった属人的な仕組みではなく、仮にあなたが担当ではなくなったとしても、または、誰が担当しても、たとえJ Cに関わらなくなったとしても、幸せを生み出し続ける強固な装置をつくることできれば、社会はより良い方向へ変化し続けます。

初めはうまくいかないかもしれません。そして、今までのやり方を変化させることが少し怖いかもしれません。しかし私たちが、準備段階から、社会の大きな潮流を捉え、1年間のJ C運動のストーリーをデザインし、ゴールから逆算して事業や例会を構築し、それにヒト、モノ、カネ等が自走する仕組みが内蔵されていれば、その装置は機能し続け、地域や社会を持続的に発展させていくはずで

私は、この考え方に賛同頂ける多くのLOMと共にJ C運動を進化させ、幸せを生み出し続ける装置、社会を変え続ける仕組みをつくる体制を、より一層強化することに尽力したいと考えています。そして、J Cの組織力を最大化し、経済・社会・国際それぞれの課題を解決することで、持続可能な地域と日本をつくることを目指します。

中でも、LOMと力を合わせ、あなたの「まちの中期ビジョン」を共に構築したいと考えています。どのまちにも、行政が策定する総合戦略や総合計画と呼ばれる、政策や予算の骨格となるビジョンがありますが、青年の目線が必ずしも取り入れられているとは限りません。また、まちの発展に必要な政策が網羅されているとも限りません。

だからこそ、まず、その総合戦略等のビジョンが、まちの持続的な繁栄に貢献するものか検証し、その結果、不足や改善点があれば、次代に責任をもつ私たちこそがビジョンをつ

くらなければなりません。もし、既にそれが素晴らしいものであれば、より良くすることもできるでしょう。

そこで私は、LOMが、故郷をより良く変え続けるための、独自のまちの中期ビジョンを、多くの関係者と共に検証・策定していけるよう支援します。そして、その独自の中期ビジョンを元に、単年度の運動を企画し、まちに広く深いインパクトを与えられるようにしていきます。

そのような運動が継続できれば、いずれは、LOM独自のビジョンが、行政が策定するビジョンにも影響を与え、あなたのまちの繁栄のみならずLOMの発展にも貢献するでしょう。また、運動をつくる唯一無二の青年組織として、他団体との差別化戦略も図ることができ、メンバーの増強にもつながるでしょう。

まちがあつてこそ、国が成り立ちます。最終的には、全国それぞれのまちが輝くビジョンを結集させ、希望溢れる我が国のビジョンを確立したいと考えています。国難の今こそ、私たち青年の知恵と情熱をもって、より良い故郷と日本の未来を描きましょう。

【最後に】

まちをより良くすることは決して簡単なことではありません。あなたがどんなにまちを良くしたいと願っても、行動を起こさなければ変わることはありません。誰かが考え、具体的に実行したことだけが社会を変えるのです。

知識は、あなたの力になります。

装置は、まちをより良くし続けます。

そして、愛は、人々をつなぎます。

こんなにも尊い運動ができるのは、JCメンバーである、あなただけです。

新しいことに挑戦する時、失敗を恐れる心が芽生えるかもしれません。しかし、前向きに挑戦する中で生まれた失敗は、次の「成功」のための貴重な材料となります。例え、あなたがJCで失敗したとしても、次の世代のメンバーがそれを教訓とし、きっと成功へとつなげてくれるでしょう。

さあ、昨日までのあなたを超えましょう。できっこないを恐れず、新しいJC運動と一緒に挑戦しましょう。

あなたの一歩が、あなたのまちになります。

大丈夫です。

あなたなら、必ずできます。